

第 3 環境分科会

1 エネルギー問題

使用エネルギーの節約

エコ住宅の普及促進、電気、ガス、水道の節約

ゴミ減量とリサイクル&リユース

自然エネルギーの利用促進

太陽光発電普及と水利用促進

2 快適安心安全な住環境

みどり優先の都市づくりー

CO2 吸収源森林保護とまち、公園のみどり質の向上

大規模開発に見直しと住環境整備

天災、人災を軽減する危機管理

豪雨による地すべり、浸水対策

地震対策

3 自然との共生、再生

野生生物（動物、植物）の保護

農業の再生

分野の目標	エコ住宅の普及と光熱費（電気、ガス、水道）の節約
指 標	整備率 %以上 満足度（率） % %以上
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	<p>近年生活の向上で住宅は面積が拡大し家電機器が氾濫し結果としてCO₂排出量で産業界が横ばいしないし減少しているのに比し、家庭用では増大している。COP3での約束CO₂削減目標95年比-6%の達成は政府発表のプランでは到底達成を困難な状況です。</p> <p>地球温暖化の影響が身近なところに顕在化し、しかもこれが人間活動によって引き起こされている事実が明らかになって来ました。温暖化防止は一人一人の取組みに加えて企業や自治体の取組みが必要です。この分野ではまず個人の節約とそれを支える社会のシステムが重要です。</p>
必要な取組み 市民等が 取組むこと 市民等と行政 が協働で取組 むこと 行政が取組む こと	<p>住宅に於けるエネルギー節約で取込む選択肢は色々あるが、 一つは光熱費を節約できる省エネ住宅へ立替、改造で、 二つは省エネ家電へのシフト、 三つめは光熱費の快適性を損なわずに減らすことです。 「省エネすれば得をする快適な生活が出来る」を目指して！</p> <p>省エネ生活の情報 ノーハウの普及、伝達 皆でやればうまく楽しく省エネが出来る！！</p> <p>省エネ住宅推進援助 補助金、減税政策 節水と雨水利用の呼びかけ 人口増になっても浄水施設の設備増設が避けられ財政支出の抑制に繋がる</p>

分野の目標	ゴミ30%削減(到達目標50%)リサイクル、リユースの促進。
指 標	整備率 %以上 満足度(率) % %以上
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	<p>何でも捨てられる中で、生活、産業ゴミが共に増続けている。ポイ捨てのゴミが街にあふれており、リサイクル、リユースの意識がまだまだ低い。</p> <p>ゴミの分別収集の実施には時間とかなりの抵抗及び困難が予想されるが、これなくしてはこの課題環境問題を克服することが出来ないと考えられる。削減目標は当面30%で到達目標は50%とする。</p>
必要な取組み 市民等が 取組むこと	<p>ゴミを買わない。マイバックの利用 ゴミ分別意識の高揚でゴミのリサイクル化 物をだいじにするライフスタイルの実践</p>
市民等と行政 が協働で取組 むこと	<p>商店はリサイクル出来る包装材料、方法に改良してゴミ減量化 分別収集の取組みの推進役になる。 リユースの推進役になる。</p>
行政が取組む こと	<p>ゴミ分別収集の実施によりリサイクルの徹底でゴミ減量化 利用しやすいリユースシステムの構築 ポイ捨て禁止条例の制定 合せて禁煙ゾーン(公共施設、公園等)も含めて 結果 ゴミ減量でクリーンセンターの処理量が減少してうまく行けば設備増設、改修が避けられ財政支出の抑制につながる。</p>

分野の目標	太陽光発電の設置推進と雨水利用
指 標	整備率 %以上 満足度(率) % %以上
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	<p>近年生活の質の向上でエネルギー消費量が増大しています。C O P 3 京都議定書のC O 2 削減目標 9 5 年比 - 6 % に対して 0 7 年度は + 8 % と大幅な増大となっています。その中で残念ながら家庭用の増加が著しい。</p> <p>地球温暖化防止一人一人の取組みに加えて企業や自治体の取組みが必要です。先の項目では節約と言う切口で考えましたが化石エネルギーに変えて自然エネルギーの利用の推進と言う切口で考え、取組まなければ課題です。</p>
必要な取組み 市民等が 取組むこと 市民等と行政 が協働で取組 むこと 行政が取組む こと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電の設置に 1 人でも多くの人が協力する 市民がエネルギー問題を考え、このまま行けば地球は間違いなく破滅する。後世の人に負荷を残さない緑の地球を残そうと言う考え方で ・ 雨水利用 雨水利用は自然エネルギーの利用で節水になる。 ・ 市民協同発電所の設置推進 個人では出来ないが協力できる人、企業、N P O、自治体協働で設置の推進 <p>設備設置補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月よりの補助金 2 万円/ k W 上限 10 万円・50 件では低すぎる。 補助金の増額 ・ G r e e n 電力証書を使った政策 ・ 環境配慮促進法に則った政策 ・ 公共施設に装置の設置 太陽光発電装置と合わせて雨水利用装置の設置 災害発生時の危機管理の一環としても重要課題でもある。

各論の整理 ひとが育てる環境分科会

2) 快適安心安全な住環境・・・みどり優先の都市づくり

2 -

分野の目標	CO2 吸収源森林保護とまち、公園のみどり質向上
指 標	
まちの状況と課題	<p>森林による CO2 吸収量は、1 h a 当り、年間 1 トン程度の炭素吸収。箕面の森林面積は約 2800 ヘクタールで、1 年間に 2800 トンの CO2 吸収量力がある。箕面山一帯には表面侵食防止、スポンジ効果の洪水かんわなど約 83 億円の見えざる富があり住環境の良さの宝物である。</p> <p>公園や街路樹、樹木の生長で街の緑の質を高め景観を向上させる樹木の管理剪定が必要である。</p>
・状況	
・課題	<p>私有林や国有林、公共林など国定公園をその周辺にふさわしい森林整備計画が必要である。農家・林家生活できる産業として成り立つための基本方針の確立が急務で、もっと森林保全に投資が必要です。</p> <p>幹や枝葉が育つため植樹の目的に応じ適切剪定管理や良好な土壌環境の確保にむけて、協働で取り組みます。</p>
必要な取組み	
・市民等が 取組むこと	<p>森林・自然や公園のマナーを守ります。花壇や落ち葉を地域で手入れします。公園利用や管理運営は市民など地域全体で進めます。</p>
・市民等と行政が共同で 取組むこと	<p>森林や植樹の学習会で 公園利用の交流会を行なう、 適切な剪定で信号の見通し確保や台風で倒木の恐れをなくす。</p>
・行政が取組むこと	<p>関係機関と共に農家・林家生活できる産業の基本方針を確立を。 森林保全に投資するとともに、見えざる富を守る支援を行なう。</p>
効 果	<p>CO2 吸収と酸素供給での地球温暖化の防止</p> <p>快適な環境</p> <p>適切な樹木剪定で交通安全</p>

分野の目標	大規模開発の見直しと住環境整備
指 標	
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	<p>人口の減少を抑えるため、数十年前の大規模開発計画を更にすすめる流れが続き、新規の都市計画道路整備も含め数十億円の税金の投入が予定されていますが、人口の減少、経済の変化、事業の採算性などから、中止も含めて総合的な事業再評価が必要である。</p> <p>住環境の維持補修は、地元市民活動の参画ですすめられているが、歩行者の安全優先の道路づくりや浸水対策、歩道拡幅など安全安心な住環境づくりの課題も多くある。</p> <p>特に、少子高齢化に対応する福祉・防災・安全などの居住環境整備を中心とする自然や環境に配慮した環境と安全を守る事業、農業の再生・自然との共生を図る整備が重要である。</p>
必要な取組み ・市民等が 取組むこと ・市民等と行政が協働で 取組むこと ・行政が取組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模開発計画の環境ウォッチングを促進します。 ・少子高齢化に対応する福祉のまちづくりウォッチングをします。 ・地域から町の安全点検を行ないます。 ・軟弱地盤上の宅地造成は安全確認域範囲の計画とする検討会。 ・水と緑の健康都市計画の未着手の第三区域の休止を含めた検討会。 ・少子高齢化に対応する福祉・防災・安全などの居住環境整備の検討会。 ・彩都茨木市域のUR事業撤退説明責任を果たし市民対話を進めます。 ・開発都市計画トンネル道路の事前評価は休止も含め行ないます。 ・少子高齢化に対応する居住環境整備への投資を高めます。 ・老朽化建造物等に適切な補修補強を重点投資する ・各事業主体のURと大阪府に市民の声や提案等を伝える。
効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見えない資産を守り、明日の負の遺産をなくす ・住環境の改善はすすみ、子どもや高齢者も安心して歩きやすい街 ・人と環境のやさしく雇用拡大・地元建設の仕事が増える

分野の目標	豪雨による地滑り、浸水対策、
指 標	
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	<p>地球温暖化の気象変動による強い台風や豪雨が各地で災害を多発させている。箕面も急傾斜地対策などや森林が弱り治山の遅れから70ヶ所を超える土砂災害危険ヶ所がある。箕面川と千里川の沿岸低地の浸水被害予測では約7500戸で、地域防災計画による雨水計画の整備状況は45%である。都市化で地面がコンクリートなどで被われ浸透・貯留力が減り、同じ降雨でも約2倍の鉄砲水による水害浸水危険エネルギーを高めている。</p> <p>全ての公共敷地や市民の敷地に雨水を溜め水循環・雨水利用を促進し、住宅敷地から雨水を溜めて散水や打水利用に活用し水道使用量を減らせるのである。市民と行政の協働で鉄砲水を抑え浸水をなくすことが効率的である。</p>
必要な取組み ・市民等が取り組むこと ・市民等と行政が協働で取り組むこと ・行政が取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺のがけ地を点検し災害弱者の命も守る防災避難の訓練を行なう。 ・災害非難情報が発令されたときは、みんなで助け合い避難します。 ・梅雨前には安全点検も兼ね溝や水路のゴミ清掃を行ないます。 ・水道節水につながる水循環・雨水利用や浸透マス設置をすすめます。 ・新築や増改築時に雨水浸透マスの設置を促進する。 ・流れ出る雨水を敷地に一時溜めるビオトープや花壇緑被覆地を増やす。 ・整備された場所に「水循環・雨水利用を促進の家」の表示を進める。 ・ハザードマップの学習会や安全避難講習会や避難訓練を行ないます。 ・災害の未然防止を図るとともに、災害避難情報を関係市民に周知し人の命を守ります。 ・土砂災害危険ヶ所の周辺市民へ災害危険度を判りやすく説明する ・全公共敷地の水循環計画を確立し促進する。 ・雨水浸透マスの支援を復活します。
効 果	<p>水路の拡幅工事費より安くできる。地元建設の仕事の増加、雇用促進 防災協同意識とコミュニティー 水道節水で得する地球温暖化防止、ヒートアイランド</p>

分野の目標	地震対策
指 標	
<p>まちの状況と課題</p> <p>・状況</p> <p>・課題</p>	<p>阪神淡路大震災の教訓を生かし、市内防災のハード、ソフト対策が行なわれてきました。公共建物の耐震化がすすむ中、一方で、地震に弱い地盤の上に都市づくりが行なわれ震災の危険性を増やしていることは大きな問題である。</p> <p>耐用年数をこえ劣老朽化対策も大きな課題で、水道や電気、ガスなどの耐震化、防災拠点や学校、住宅の耐震化も急がれ、救助消防活動など消防力の法定配置不足解消も必要である。</p> <p>地震災害から命を守るため、地震「ハザードマップ」の公表し、震災要因の拡大を中止し、地震対策を促進する。安全環境を重視したまちづくりを行いと自助力、共助力の地域防災を高める。</p> <p>劣化老朽建造物の増加に対して耐震対策と合わせて補強、整備で人の命を守る。水道、ガス、電気などライフラインの耐震化、災害への万全な備えなど、箕面市災害予防条例を制定する。</p>
<p>必要な取り組み</p> <p>・市民等が取り組むこと</p> <p>・市民等と行政が協働で取り組むこと</p> <p>・行政が取り組むこと</p>	<p>・住宅耐震点検と対策、居室や居間の家財の安全対策をすすめる。</p> <p>・割れたガラスで多くの人が足に怪我をしないよう居間や寝室の底厚の履物を置いておく。</p> <p>・安否確認が早くできるように日頃から広域避難場所や公園をあらかじめ決めておく。</p> <p>・一つでも二つでも大切な命を救う助け合う日頃の暮らし重要である。</p> <p>・井戸水の汲み上げも地域の行事に取り入れ救助消火活動などの共助力や消防力を高める</p> <p>・「震災ハザードマップ」を公表し説明会をすすめる。</p> <p>・地震災害対策の啓発と相談窓口を開設し支援策など促進する。</p> <p>・ライフラインの耐震化を促進し住宅耐震点検と対策の支援を高める。</p>
効果	<p>水道管の耐震化で老朽管も解消、水質改善の効果</p> <p>コミュニティ自治会の活性</p> <p>避難ルートと避難先が夜間も安全な町</p>

分野の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・森を育て農産物被害を抑えながら人と共存する天然記念物ニホンザル、イノシシ・シカの安定的な保護を図る。 ・サンショウウオやホタル、チョウなど昆虫の生息森林育成をすすめ豊かな緑と溪流の保全・再生(豊かな森作り) 森を「宝の持ち腐れ」にしないで「宝の山」に
指 標	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ、シカ、サル別個体数標準値策定と 適宜捕獲数、生息地移動 ・農産物被害額の農家からの定期、随時報告 と防護柵新設補強数の変化 ・野生生物繁殖に関係する間伐採の頻度報告と支援必要把握 ・ホタル・サンショウウオ 個体数管理 増減把握
まちの状況と 課題 ・状況 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な野生生物などに、気象変動の影響と見られる豊かな森の生息環境の急速な変化が始まっている。 ・天然記念物ニホンザル、イノシシ・シカの安定的な保護 = 「個体数管理」「生息環境管理」 ・但し止々呂美や山麓付近のイノシシ・シカなどによる農作物被害が増えており、防除対策の推進。「被害管理」との調和を図る必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> … 止々呂美地区：高齢化と農業人口減少により、間伐が充分にできておらず、イノシシの タケノコ被害甚大。 08 2 月施行「鳥獣被害防止特措法」鳥獣捕獲、防護柵設置に 地方交付税拡充され財政支援開始されたが、まだ不十分な状況。シカも同様の被害、防護柵が人の丈では低すぎる。 … 外来生物捕獲防除対策： 05 外来生物法 施行 ・森林開発を調整制御し、森林育成をすすめ豊かな緑と溪流の保全・再生プラン(豊かな森作り)でサンショウウオやホタル、など昆虫の生息図る。
必要な取組み 市民等が 取組むこと 市民等と行政 が共働で取組 むこと 行政が取組む こと	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンザル、イノシシ、シカの「個体数管理」や「生息環境管理」、及び「被害管理」による被害防除対策をすすめ、 安定的な保護。 ・ホタル、チョウなど昆虫の棲息も含めた、動・植物保全再生プラン NPO 例：箕面ホタルを守る会、各地河川アドプト 等他拡大増強支援 ・イノシシ、シカなどの被害防止計画を協働で策定、 鳥獣捕獲や防護柵設置を具体的に計画。 ・河畔ホタル再生保護 「ホタル条例」策定 (05 案検討経緯有り) ・「鳥獣被害対策実施隊」の定期活動と 改正鳥獣保護法(99)・鳥獣被害防止特措法の農林業被害者への支援業務、防護柵・新設補強への資金支援 ・ニホンザル：箕面山猿保護管理委員会による保護管理継続。教育委員会などが配布している 箕面滝観光客等への配布チラシ サルへ食べ物をみせないで、食べ物を与えないで、近寄らないで 継続。学識関係者との連携でサル群れの山域移動、サル野生保護成功モデル目標

分野の目標	農地 220ha の維持 農業後継者の育成と税優遇措置のある農業体験農園の拡大化で補完 (豊かな森作り) 森を「宝の持ち腐れ」にしないで「宝の山」に 間伐支援
指 標	農地面積 220ha の歯止め 農産物被害額 減(定期、随時) と防護柵新設補強数の変化把握 農林業従事者の 満足度(率) %向上
まちの状況と課題 ・状況 ・課題	農産物の生産 Cost の削減検討 農産物の野生生物からの被害: ・全国レベル:(農水省調査)1990年度被害農産物 12万トンが98年度46万トン 06年度 36.6万トンで、被害額も 99年度から 06年度横ばい 118億円~135億円 イノシシ、シカ、サルが約9割。被害要因は 農村地域の過疎化、高齢化で 餌場や隠れ家になる耕作放棄地が増えたこと、暖冬傾向と少雪化で生息地域が拡大。(国土全体のニホンシカ生息地 78年度24% 03年度 42%、イノシシ、サルも同様の傾向) ・狩猟免許者 88年度 43万人 02年度 21万人 狩猟捕獲減も一因 食糧自給率 全国平均39%を農業再生・地産地消で 50%目標に
必要な取組み 市民等が 取組むこと 市民等と行政 が共同で取組 むこと 行政が取組む こと	・農林業の再生 例:農業体験農園を事業する継続従事者メンバー結成 NPO 例:菜の花 Project、箕面の山と自然の保全活動団体 14 団体他 間伐・清掃作業 支援 ・JA 北大阪、A-COOP、箕面の山と自然の保全活動団体 と行政による 地産地消の推進。小中学校給食 への「箕面米」安定供給担保して80%目標化、野菜、果物も暫時追加 朝市街頭売り場所:市道、府道、国道使用許可取得支援、朝市、即売場所便宜支援 参考例 茨木地産地消「美山の郷」(農業事業組合)、JA 兵庫六甲の街頭販売 ・例:農業体験農園:箕面農地(220ha)の市からの積極的推進啓発。08から農水省が関西圏でも導入推進中。最初は練馬区実施し国税庁も納税猶予許可。市民農園(貸農園)は相続税納税猶予地となり借主が返却すれば貸主は納税義務が生じるが、「農業体験農園」は納税猶予継続可能。 ・間伐作業への広域支援への橋渡し ・農林業後継者育成の為に 農地確保「市街化調整区域」の部分的拡大。 例:農業体験農園の導入啓発。実施中の田植え、芋掘体験の応用拡大。
効果	森林・農地が確保・再生することにより、「二酸化酸素吸収」、「表面侵食の防止」や「集中豪雨時の洪水の緩和」などの働きもあり、野生生物も保護され、景勝地として景観保持に繋がります。